

授業科目名・形態	老年看護方法論Ⅰ 演習	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	檜原登志子・芳賀邦子・黒澤繭子	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

高齢者の老化に伴う機能低下の日常生活変化に対し、健康を維持する為の支援を目的とする。又、多くの慢性疾患を持つ高齢者も増加の中、多く現れる主要症状を理解する為、病態生理、機能評価方法・尺度を用い必要なアセスメントを行い、生活者の視点から自立とセルフケアや QOL の向上を考え、その人らしい日常生活を送る為持っている機能（生活機能という）に対し、安全な技術や援助方法を学習する。

【到達目標】

1. 高齢者の老化に伴う機能低下の日常生活変化に対し、健康を維持する為の支援を理解できる。
2. 慢性疾患の主要症状とその病態生理を理解できる。
3. 機能評価方法・(指標・尺度)を用い必要なアセスメントを理解できる。
4. その人らしい日常生活を送る為の生活機能に対する、安全な技術や援助方法を理解できる。

【授業計画・内容】

第1回	老年看護援助の基本	(檜原)
第2回	高齢者のアセスメント	(檜原)
第3回	身体に加齢変化とアセスメント	フィジカルアセスメントから看護ケアへ〈外皮系・感覚系〉
第4回	〃	〈循環系呼吸器系・消化器系〉
第5回	〃	〈内分泌系・生殖泌尿器系・運動器系〉
第6回	高齢者によく見られる身体症状とアセスメント	発熱・痛み・かゆみ
第7回	高齢者の生活機能を整える看護展開	(檜原)
第8回	高齢者によく見られる身体症状とアセスメント	脱水・浮腫・倦怠感
第9回	日常生活を支える基本動作能力のアセスメントと看護ケア	(評価指標・尺度)
第10回	転倒のアセスメントと看護ケア	・廃用症候群(生活不活発病)の予防と看護ケア
第11回	食事と看護ケア	食生活と摂食・嚥下障害のアセスメント・口腔内の変化と口腔ケア
第12回	排泄と看護ケア	排泄障害とその特徴・排泄機能アセスメント
第13回	清潔と看護ケア	清潔のアセスメント・入浴方法とケア・清拭・陰部洗浄・足浴
第14回	生活リズムと看護ケア	生活行動のアセスメント・睡眠と覚醒の変化・昼間と夜間ケア
第15回	演習(高齢者疑似体験を含む)	(檜原・芳賀・黒澤)

【授業実施方法】

講義形式。必要に応じて(高齢者の立場に立って生活状況を考えるケア者になる為に、事例の視聴覚教材)等を視聴して、状況を洞察し思考する。別に演習(高齢者疑似体験を含む)を実施する。

【授業準備】

授業で配布する資料や教科書で復習をし、理解を深めてください。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(精神科)」「リハビリテーションと看護」

【教科書等】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版、医学書院、2019
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2019

【参考文献】

ナーシング グラフィカ 26「高齢者の健康と障害」、27「老年看護の実践」、メディカ出版、2018
 山田律子他編：生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図 第1版 医学書院、2012/2015 /2016 第3版
 亀井智子編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第1版 医学書院、2012/2014、第2版、2016

【成績評価方法】

筆記試験 85%、課題学習レポート提出 10%、授業態度 5%の総合評価とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

病院の看護師実務から、ケアを受ける人すべてに生命の安全を第一に、尊厳を持ち接し、安心と安楽な生活を支援できるケア者となるための学習支援をいたします。

【学生へのメッセージ】

高齢者の身体機能変化を病態理解し根拠あるケアを学び、その人の立場に立ち生活状況を理解し良いケアを学びます。